毎月第3金曜日に、無料相談会を開催しています!! 予約制になっておりますので、事前にお電話にて ご予約下さい♪

**3** 03-5429-1096

お困りごとありませんか?

• 遺言書作成

おひとりさま相談

・相続の手続き

• 不動産登記

・成年後見人

□相続法務グループ

あなたと大事な人のための

## 毎月第3金曜日(予約制)

19:30~ 211:00~ 314:30~ 416:00~ ※上記以外の日程については、ご相談下さい



相続のご相談を中心に、ご高齢者の後見 ・民事信託 人や生前対策、老後のお住まいの相談も 水ってきました。不安を解消するお手伝 ・老人ホーム探し いをさせていただきます。

司法書士法人相続法務 603-5429-1096



#### 1位 相続人同士の感情的な対立

故人の子供の一人だけが介護やお世話をしていたた め、同じ財産割合に納得いかないケースや、生前に 一人に対して学費や頭金などの資金提供があったの で、その分受け取る額を下げるべきだと主張ケース など。元々不仲で連絡が全く取れなかったり、話し 合いが難航して手続きが進まなくなるケースも。

相続手続 "困った"あるある

#### 2位 相続手続が終わっていない財産がある

相続財産の中に、過去の相続手続きが未了のものが 含まれていてその相続人がすでに亡くなっている場 合、亡くなった相続人が本来相続する人の子どもな ど、代わりに相続する人を探す必要もあり、相続人 が数十人以上に膨れ上がることも。

### 3位 不動産を誰かひとりが相続する

財産の中に不動産があるケースでは、誰か一人が相 続して他の相続人に代償金 (分けにくい財産を1人 の相続人が受け取る代わりに、他の相続人に支払う 金銭)を渡す場合、その不動産の評価を幾らとして 考えるのか、相続人同士の意見が合わないことが多 く、最悪の場合、裁判になってしまいます。

#### 4位 相続人と連絡が取れない

相続手続をするには、相続人の戸籍や住民票、印鑑証明書 などが必要になります。国内にいれば現住所を探す方法が あるのですが、海外に居住している場合で手掛かりがない と連絡も取れず、手続きが一向に進まないケースなど。

#### 世田谷グルメ

#### 素朴さの中にある洗練された味

イタリア、アルプス山脈南西麓に広がる美しい州「ピエ モンテ州」。(州都は2006年にオリンピックが開催された 都市トリノ。イタリア王国(サヴォイア家)時代の首都 でもあった) そこで5年間修行を重ねたシェフが、地元 兵庫の無農薬野菜や但馬牛や丹波の猪など旬の食材を使 って、ピエモンテの郷土料理を提供してくれます。ラン チメニューのCorsaAは、前菜の盛り合わせ、本日のパス タ(3種類からチョイス⇒特製パンチェッタと秋茄子の



トマトソース タリアッテレ)パン、カフェが付いて税込1,980円。 ちょっぴり贅沢したい日や、自分へのご褒美にいかがでしょうか。ディ ナー (CorsoA 税込6,050円~) もおススメです♪



#### Osteria Egidio Sala オステリア エジリオ サーラ

- 世田谷区砧8-9-8
- 03-3749-3899 LUNCH 月~土 11:30~15:00(14:00L,0)
  - 17:30~22:00(21:00LO)

日·祝12:00~15:30(14:30LO)

← 不定休

#### 【定期購読について】

「のりのり通信」の定期購読を ご希望の方は、右のQRコードを 読み取り送信ください♪



#### 編集後記

2025年立冬号をお読みいただきありがとうござい ます。成年後見人についての理解が深まってきてい るのではないでしょうか。次回も面白い内容になり ますので、楽しみにしていてくださいね♪

ご意見、ご質問、記事についてのご感想などありま したら、ぜひぜひお寄せください。お待ちしており ます。次回もお楽しみに!

「制作・編集担当 井本]

『のりのり通信を読んだよ!』というお客様には エンディングノートを無料で進呈いたします。 事前に必ずお電話下さいく

03-5429-1096

司法書士法人 相続法務 (東京司法書士会会員 法人番号11-00511) 株式会社相続不動産コンシェルジュ 株式会社絆コーポレーション

math https://ilq.jp/





2025年立冬号

# souzokuhoumu GRP

# のりのり通信



vol.03/2025



成年後見制度についてのセミナー

最近セミナーのご要望を多くいただいておりま す。その中で成年後見制度のお話をする機会が 増えています。

成年後見制度は、来年に大幅な法改正を予定し ています。当事務所では、法改正に先立って、 制度の矛盾点を解消するべく、独自の対応をさ せて頂いております。

成年後見制度は開始から四半世紀が経ち、よう やく利用者の立場に立った法改正がされようと していますが、ご家族の事情は100者100様で す。制度に使われるのではなく、制度をうまく 使いこなしたうえで、家族間の問題解決につな がればいいなと思います。 門脇 紀彦

## 「肝心なことは、目に見えない」

『星の王子さま(サン=テグジュペリ作)』で出てくる有名なフレーズです。心で見ないと物事はよく見 えない、という意味ですが、私も日々のご相談を受ける場面で良く自分に言い聞かせていることです。 相続のお仕事をしていると、お金や不動産の事、そして税金のことなど目に見えることへの相談が多いの は事実です。ただ、お金の事だけを考えていては解決に至らないことが多くあります。

そのご家族の歴史や出来事を詳しくお伺いし、その環境の中にいるご家族がどのような感情になっていた か、どのように行動していたのか。また、亡くなられたご先祖様がどのようにご子孫を見ているのか、そ してお子さんやお孫さんに対してどのような影響があるのか。特に、お子さんやお孫さんは、ご両親がご 相続で揉めていたり、ご家族の中でどのような言動をされていたのかをよく見ています。

その影響は次の世代に受け継がれてしまいます。家族同士いがみ合っている と、それを気付かないうちに踏襲してしまう事はよくあります。家族内の信 頼関係は、一世代に限らず、次の何世代に影響を与えてしまうのです。

私たちの事務所は、相続をテーマにお仕事をさせていただいておりますの で、広い視野で物事を観たうえで、アドバイスをすることを心がけておりま す。それが相続に携わる士業として不可欠なことだと捉えております。

目に見えないことの方が大切です。お金や不動産が安全・円滑に相続される ことはもちろん、「心で観た想いを引き継ぐこと」が肝心です。その方が結果 的に人の幸せにつながると確信しているからです。そんな事を考えながら、 日々研鑽に励んでおります。



# ○8A 司法書士・門脇紀彦に聞く!「教えて!のりのり先生!!」質問コーナー



このコーナーは、世田谷区祖師谷大蔵で1,500件以上の相続のお手伝 いをしてきた、「司法書士法人相続法務」の司法書士・門脇紀彦が、 わかりにくい相続にまつわるご相談をわかりやすく、 Q&A会話方式でご説明しながらお答えするコーナーです。

皆様からのご質問やご感想をお待ちしております。



## 成年後見制度について ~応用編②~

---失生、今回は後見人が「できること」と「できないこと」について教えて下さいか





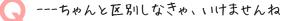
勿論です!成年後見人が選ばれた後、財産管理を全て後見人が本人の代わりに行 うことになります。具体的には、本人の通帳の名義が後見人の名前になったり、 契約行為も本人ではなく後見人が参与して後見人の印鑑で全部行うことになりま す。その中でこういうことが「できる」「できない」についてお話しますね。

---はい!それが知りたいです。



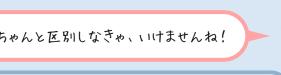


当然目的があって後見人を立てるので、例えば「銀行の定期預金を解約したいんだけど 本人が認知症なので、解約するために後見人を申立てます。」という場合、後見人は定 期を解約して、それを本人の生活のために利用することができます。 当然ながら、そ のお金を本人じゃなく、後見人自身のために使うのは横領になります。本人のためだけ にしか使えないお金になるので、そこは厳格に区別をしなければいけないのです。





---ちゃんと区別しなきゃ、いけませんね!





そうですね。また、よくあるのが「お孫さんにお年玉をあげる」とか、「学校に入学 したから入学祝いをあげる」とか、そういったことも法律的には贈与になってしま います。多少のお金であればいいんですけれども10人のお孫さんに1万円ずつ渡すと なると、ちょっと難しくなってしまいます。贈与というのは、本人のために使うお 金ではありませんからね。

> ---えーっ! お年玉もダメなんですか!? もし"ご本人が判断できるのであればきっと渡していた"と 思われる場合もできないのでしょうか?





そうですね。うまく家庭裁判所に説明すれば、できることもあります。"今まで十何年 間、お孫さん一人一人にお年玉を1万円ずつ必ずあげていた"という事実を上申書にし て提出し、"これは本人が続けたかったことだろうから、今後も本人に代わって続けて いきます"というようなことをきちんと説明をして家庭裁判所のOKが出れば渡せる、 ということになります。逆にいうとそこまでしないとできなくなっちゃいます。

---孫にお年玉をあげるには、そこまでしなくちゃできない・・・の驚きです!





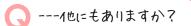
そうなんです。額が大きくなると基本的にはできません。「年間110万の間であれ ば非課税になるので財産を減らした方が相続税も減らせるので、少しずつ贈与し ましょう」というのは皆さんご存じだと思いますが、これも基本的に駄目なんで す。 相続税というのは本人が払う税金ではなく、 相続した人が払う税金なので 本人のためという理由として成り立たないんです。

---てっきりできるものだとばっかり思っていました。





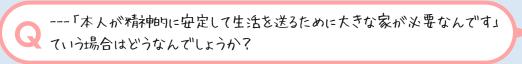
ですよね。後見人が選任された段階で相続税対策はほとんどできなくなっちゃいま す。保険については、本人が持っているアパートや収益物件といった必要不可欠な 部分に関する火災保険の契約は後見人ができますが、生命保険に関しては本人が亡 くなった後に支払われるという性質なので基本的に契約はできません。入院保険な どの本人のために支払われるものに関しては、できるケースもあるんですが。







他には、『自宅の建て替え』があります。生活に必要最低限の自宅の建て替えはで きます。ただ、豪邸は建てられません。本人1人のために豪邸は必要ないですか ら。家族みんなを住まわせるために豪邸を建てるとなると、それは家族のための家 になってしまいますので、基本的にはできません。







そうですね。家庭裁判所に申し立ててみないと分かりません。今までそういうケースは 受けたことがないんですが……結局は家庭裁判所がどう判断するかです。「理由として 認められますね」っていうことであれば「使ってもいいです」となりますが「そんなゴ ージャスな家は必要ないでしょ」と判断されると却下されます。それから、アパートを 持ってる方もいらっしゃいますがアパートの建て替えも基本的には難くなるんです。 『自宅以外の不動産』については、次回またご説明いたしますね。お楽しみに♪

